

# 波となぎさ

Wave & Beach

2015  
No.196  
季刊



仙台塩釜港 塩竈みなと祭

## 特集

---

ODAIBAビーチスポーツフェスティバル2015  
震災復興5年目 各地の復興状況

---

港湾海岸防災協議会



# ～ビーチゲームズ日本招致推進プロジェクト～ ODAIBAビーチスポーツフェスティバル2015 目指せ!! クリーンUPお台場海開き

NPO法人日本ビーチ文化振興協会  
清田 真珠美

日本の海辺を夏だけの『海水浴文化』から、春夏秋冬、年間を通じて集い賑わえる『ビーチ文化』の創造を目指した活動を続け、今年で12年目を迎えた。とくにビーチ・マリ

ンスポーツは水辺を持つ地域を活性化させる重要なソフトとして、全国各地の啓発活動に取り入れてきた。

ビーチの活性化を図りながら、海外に目を向けたPRをするため、ア

ジアビーチゲームズ(ビーチ・マリンスポーツのアジアオリンピック位置づけ/主催:アジアオリンピック評議会)の日本招致推進プロジェクトを2014年に発足し、元ビーチバレーボール選手の浅尾美和さん、当協会理事長朝日健太郎を中心に招致推進活動第一弾として昨年5月に「ODAIBAビーチスポーツフェスティバル2014」を実施した。ビーチバレーボール、ビーチサッカーなどのメジャースポーツからビーチテニスやビーチハンドボールといったニュースポーツ、さらにはフライボードやウェイクボードなど話題のマリンスポーツを展開し、ビーチ・マリンスポーツの見本市のようなイベントとなった。

今年もゴールデンウィークのお台場海浜公園おだいばビーチ(東京都港区)でイベントを実施。天候に恵まれ、ファミリーから外国人観光客など老若男女が集い3日間で約6万人の人で会場は大賑わいとなった。

今回、東日本大震災で被害に遭われた福島県いわき市の家族をご招待し、観戦や子どもから大人まで楽しく参加できる体験スクール、また正しく楽しく学べる海辺環境教室、安全教室などビーチで存分に過ごしていただき、海辺の楽しさを堪能して頂いた。



会場全体



ビーチバレー東京オープン

## ひらけた空間、観戦無料の効果

今回、スタンド観客席を設けず、イスを並べて誰でも観戦できるよう無料で開放したことで、ふらりと立ち寄った来場者も気兼ねなく観ることができ、また観る人を魅了させる戦いが人々の足を止めさせた。そのため、メインコート周辺は多くの人で賑わい、軽快な音楽やライブ、DJのトークで活気に満ちた理想のビーチ空間となった。



ビーチバレーボール体験教室

## ダイナミックな水上競技

今年新たに加わった競技の一つであるライフセービング競技の「オーシャンマン/オーシャンウーマン」(特定非営利活動法人日本ライフセービング協会)。レスキュー道具であるパドルボード、サーフスキーを使用して海上に浮かべたブイを回り、スピードを競う。ライフ

セービング競技の中で過酷である一方、救助力を最も高める競技としてオセアニアや欧米では最も人気の高い種目である。スタートと同時にサーフボードを持って一気に海へ向かう様は人命を守るライフセーバーの活動を垣間見ることができた。

人命を助けるだけでなく、事

故を未然に防ぐために「自分の身は自分で守る」ことの大切さを伝えることもライフセービングの役割である。海辺の正しい知識と自分の守り方を知ってもらうためライフセービングジュニア教室を実施し、子どもや保護者も参加して身近な物を使った救助方法や心肺蘇生法について学んだ。



ライフセービング救助デモンストレーション

## 体験コーナーにはニュースポーツが続々登場

ビーチには何の予定もなくふらりと来場される人も多い。そんな人たちにマリンスポーツを身近に楽しんでもらうため、体験コーナーを展開した。ビーチバレーボールやビーチテニス、ビーチフラッグスなど、親子で楽しめるプログラムとして人気だった。中でもビーチ相撲体験(日本ビーチ相撲連盟)は外国人観光客に人気があり、様々な海外の言葉が飛び交って





ビーチ相撲



フレスコボール



ビーチベースボール

いた。力士に挑戦する人や観戦する人、力士に挑む我が子の勇姿をカメラに収めようとする保護者などで土俵の周りは大きな人だかりとなった。

そして、今回ニュースポーツとして新たに加わったフレスコボール(一般社団法人日本フレスコボール協会)、ビーチベースボール(世界ビーチベースボール協会)はなんとも興味をそそる競技であった。

フレスコボールは1945年にブラジル リオデジャネイロで生まれたビーチスポーツで、板のラケットとゴムボールでラリーを続ける競技である。ネットを使用しないため場所を選ばず楽しめ、当協会朝日理事長も太鼓判を押していた。また今年3月には世界選手権が開催されたなど、ニュービーチスポーツとして今後注目である。

ビーチベースボールは世界初の競技として2011年に誕生。昔懐かしい三角ベースで行うのだが、ピッチャーのポジションはなく、バッターが自らボールをトスして打ち、ベースを回るというルール。簡単にできるスポーツとして子どもから大人まで楽しめる。さらに、美しい筋肉を持つボディビルダーが日本代表選手ということで、ビーチベースボールも選手ともに目が離せない。



ビーチベースボール日本代表選手



ビーチフィットネス

また、リラックスしながら体を動かすビーチヨガも参加した人たちを癒した。特に夕方に行うサンセットヨガは、太陽の恵みと自然の力を感じながら心身ともに癒すことができる。実際に体験してみると、言葉にできない気持ち良さや自然へ感謝する気持ちが育まれるおススメのプログラムだ。

昨年とは違ったビーチ・マリンスポーツが加わり、スポーツが進化していること、またビーチの需要が高まっていることを実感するイベントとなった。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、関東には国内外問わず多くの人が訪れるということから、言語の壁やバリアフリー化、環境設備など様々なことへの対応が必要であることも本イベントを実施し改めて痛感した。今回のイベントから学んだことを活かし、より価値のあるビーチ創りへと発展し、目指すべき21世紀のビーチライフへ邁進する。

### 癒しの空間

ビーチスポーツだけでなく、癒しの空間があると誰でもビーチライフを楽しむことができる。波の音と潮風を感じながら読書ができる場所として、日本大学理工学部海洋建築工学科の学生たちが海辺図書館を開設した。竹で作るパーゴラは太陽の日差しを柔らかな木漏れ日に変え、潮風でゆらゆら揺れるパーゴラの下で読書をしていると、うとうとしてしまうほど心地が良く、一番人気のスポットとなっていた。



海辺図書館